株式会社コンポン研究所御中

　研究発表・講演・論文投稿　届出書

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 届出日　年　　月　　日 | | | | 所属　追手門学院大学　氏名　乾敏郎 | | | | |
| 発　表　形　式 | 研 究 発 表 | 発表会議名：日本認知心理学会第17回大会  主催団体名：日本認知心理学会  発 表 日：　2019年5月25日 ~ 26日　　(予稿集等公開日　2019年5月25日)  発表形態：未定　☑口頭発表　□ポスター ☑講演概要(論文)集（Proceedings）有  発表会場：京都テルサ　　国名： 日本  住所：〒601-8047　京都市南区東九条下殿田町70番地 | | | | | | |
| 論文投稿 | 掲載誌名：  投稿予定日： 　　年 月 日　　　(掲載時期(予想)：　　年　　月　　日)  論文言語：□英語　　□日本語 | | | | | | |
| タイトル | 和 文 | アイオワ・ギャンブル課題における認知の切り替えに内受容感覚が与える影響 | | | | | | |
| 英 文 | Effect of interoceptive sensitivity on cognitive set-shifting in Iowa Gambling Task | | | | | | |
|
| 発 表 者（著 者） |  | 氏名（漢字） | | | 氏名(英字) | 所属機関および部署 | | 役職 |
| 筆頭 | 前川亮 | | | Nobuhiko Asakura | 追手門学院大学 心理学部 | | 特定　研究員 |
| 連 名 著 者 | 片渕一徳 | | | Kazunori Katafuchi | 追手門学院大学 心理学部 | | 学部生 |
| 乾敏郎 | | | Toshio Inui | 追手門学院大学 心理学部 | | 教授 |
|  | | |  |  | |  |
|  | | |  |  | |  |
| 発　表　概　要 | 意思決定課題の1つとして知られるアイオワ・ギャンブル課題において，内受容感覚の個人差が課題成績に影響を与えることが報告されている。本研究では，課題途中で山の内容を切り替えることで，参加者が山の変化に気づいて再学習を行うことができるかどうかを調べた。結果，山の切り替え直後の成績と内受容精度の間に正の相関がみられ，また，山の切り替えに気づくまでの試行数と内受容精度の間にも正の相関がみられた。これらの結果は，内受容感覚が直観的な意思決定を補佐していることを示唆する。 | | | | | | | |
|  | コンポン研究所・トヨタ自動車　記述欄 | | | | | | | |
| 特許・機密 | 特許出願対応　　□不要　（理由：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）  　　　　　　　　□ 要　 （要の場合は以下の出願状況を確認）  □出願済：出願No.　　　　　　　　　　　　　□出願予定　　　年　　月頃  未公開技術の記載（ノウハウ含む）の有無　　　□無　□有（対応：　　　　　　　　）  他の機関との契約による機密保持事項の有無　　□無　□有（対応：　　　　　　　　） | | | | | | | |
| 確　認 | コンポン研担当者 | | コンポン研担当役員 | | | トヨタ自動車BR-未来社会工学室 | | |
| 年 　月 　日 | | 決裁 | | 年　 月　 日 | 月　 日 | 年　 月　 日 | |

輸出管理自主判定票（発表等）

　該非確認責任者

年　 月　　日

日付

氏名

次の業務にあたり、輸出管理に関して自主判定をしましたので、届け出ます。

(該当の□にﾁｪｯｸし、内容を記入してください。)

□国際学会・シンポジウム・講演会等で発表や展示をする。

　→国際学会、シンポジウムの内容：

|  |
| --- |
| 学会等の名称：  実施内容：  発表､展示､送付の予定日：  開催場所： |

□海外の雑誌等に投稿する。

　　　→雑誌等の内容：

|  |
| --- |
| 雑誌等の名称：  投稿予定日： |

【自主判定結果】 （設問の□にﾁｪｯｸし、必要内容を記入して下さい。）

問１　国際学会・シンポジウム・講演会は誰でも参加可能ですか？　又は

海外の雑誌等は誰でも入手可能ですか？

　　　□ YES　 →　許可申請不要です。該非確認責任者の確認が得られたら、本票を提出して業務を進めて下さい。（以後の設問の回答は不要です。）

　　　□ NO　　→　問２へ進んでください。

問２　発表、展示内容、雑誌への掲載内容は、基礎研究に係るものですか？

　　　　　　注）基礎研究とは次のものをいいます。

・自然科学の分野における現象に関する原理の究明を主目的とした研究活動であって、理論的又は実験的な方法により行うものであり、特定の製品の設計又は製造を目的としないもの

□ YES　 →　許可申請不要です。その根拠を下記＊に記入して下さい。該非確認責任者の確認が得られたら、本票を提出して業務を進めてください。

＊基礎研究と判断する根拠：

* NO　 →　「審査票」を起票して該非判定を行ってください。

経路：研究者→該非確認責任者→研究企画部（保管）